

◎ 令和元年度第5回学術講演会

日 時： 令和元年 9月 14日 (土) P.M. 2:00~4:00
場 所： ホテル アイボリー 3階 オーキッドホール
共 催： (一社) 豊中市医師会、日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
演 題： 「大きく変わりつつある肺癌診療」
講 師： 独立行政法人 国立病院機構 大阪刀根山医療センター
呼吸器腫瘍内科部長 森 雅秀先生
座 長： 豊中市医師会 学術生涯教育担当理事 田村 和子先生
取得単位： 日本医師会生涯教育制度 2単位 (10、12、45、46) 申請中

【抄 録】

昨年ノーベル医学・生理学賞が本庶佑先生へ授与され、再び免疫チェックポイント阻害剤 (Immune checkpoint inhibitor: ICI) に大きく注目が集まりました。この数年、肺癌に対する薬物治療は急速に変化し ICI と従来の抗癌剤の併用療法が昨年末に保険承認されています。

最新の肺癌診療ガイドライン 2018 年度版では、進行した肺腺癌・扁平上皮癌に対する薬物治療として、特定の遺伝子変異があれば分子標的薬を投与、それ以外の患者に対しては ICI と細胞性障害性抗癌剤をどう組み合わせるか、という状況になっています。また、肺小細胞癌に対しても、近日併用療法が承認の見込みになっています。さらに、ICI (デュルバルマブ) は化学放射線治療の維持療法として再発を抑える効果があるとされ、当院でも約 10 人の患者さんに投与中です。

ICI は登場からわずか 3 年半で、肺癌に対する薬物治療の主役になりました。毎年標準治療がどんどん変わっていくという状況で、化学療法の薬剤選択・治療管理によって大きく予後が左右されるようになってきました。しかし、まだ免疫治療 ICI は始まったばかりで、長期的な効果についてはまだまだ不明です。また、ICI は従来の抗癌剤とは異なる有害事象のプロファイルを示すこと、有害事象の発現時期も非常に幅が広く、管理に注意が必要です。

薬物治療以外でも、近年肺癌診療は大きな変革が起きています。肺癌に対する手術は当院では 90% 近くが胸腔鏡併用下での手術になり、患者負担が大幅に軽減されてきています。診断ツールとしての気管支鏡検査でも、超音波内視鏡の導入により、縦隔リンパ節に対する穿刺生検、および末梢の結節に対する正診率が上昇しています。

毎年、豊中市でも 350 人程度の肺癌患者が発生しており、この患者さん方を病診連携も含めてどうマネージメントしていくか今後の大きな課題です。肺癌患者の診療にあたり、医師会の先生方の日常診療に直接お役に立つ講演内容にしたいと考えています。